



ご挨拶

内分泌攪乱化学物質による人や生態系への影響については、現代に生きる私たちだけではなく将来の世代への影響も懸念される問題として、国民に大きな不安を与えています。来るべき21世紀においてだれもが安心して暮らせる社会を築いていくためには、この内分泌攪乱化学物質に対する不安を早急に取り除いていくことが行政に今求められている重大な任務と考えております。

環境庁においては、環境ホルモン戦略計画SPEED'98を一昨年に策定し、環境実態調査を全国一斉に行う等の取組を進めるとともに、国際的な連携の下に諸外国や国際機関との情報交換を進めています。

この一環として、平成10年の京都に引き続き、平成11年には神戸で「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」を開催し、世界の第一線の研究者の参加の下、質の高い議論が活発に展開され、国内外から高い評価をいただきましたが、この成果を更に発展させるために、第3回国際シンポジウムを本年12月に横浜市において開催することとしました。

今回のシンポジウムの主なねらいは、

- ・内分泌攪乱化学物質問題に関して得られた最新の科学的知見を明らかにし、今後の研究の方向を模索すること。
- ・国際協力のもとで進められている本問題への取組の現状を把握し、更なる国際協力の在り方を探ること。
- ・生態系を守ることは人に対する安全性の確保にも繋がるという基本理念を再確認すること。

の3点です。

ここにプログラムの第一次案をお届け致します。私は、この国際シンポジウムが、世界各国の科学者、行政担当者、産業界そして国民にとって、意義ある会議となることを希望しております。是非とも多くの方々の参加をお願いいたします。

2000年 8月 環境庁長官 川口 順子

国際シンポジウムのプログラムについて

本シンポジウムは、2部構成になっています。

16日は、国民に幅広く参加いただくためのプログラムとして、欧米諸国等から内分泌攪乱化学物質に対する取組状況を報告いただくとともに、パネルディスカッションを行います。

17日、18日の2日間は、研究者を対象としたプログラムで、専門的な内容について科学的な議論を深めることを目的とし、セミナー形式で開催いたします。

参加申込ご案内

参加を希望する方は、往復はがきに氏名、所属、住所、電話、ファックス番号、E-mailアドレス、参加希望日を記載の上、下記運営事務局（株式会社コングレ）宛にお送りください。参加費は無料です。

海外からの参加者は、上記と同様の項目について、ファックスもしくは電子メールを、下記運営事務局へお送りください。

運営事務局

東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル 6F ㈱コングレ内

「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局

TEL:03-3263-5394 FAX:03-3263-4033 E-mail: eed2000@congre.co.jp

締め切り

平成12年11月30日(木)必着（申込み多数の場合は、先着順となります。）

使用言語

日本語・英語(同時通訳あり)

International
Symposium
on
Environmental
Endocrine
Disruptors
2000

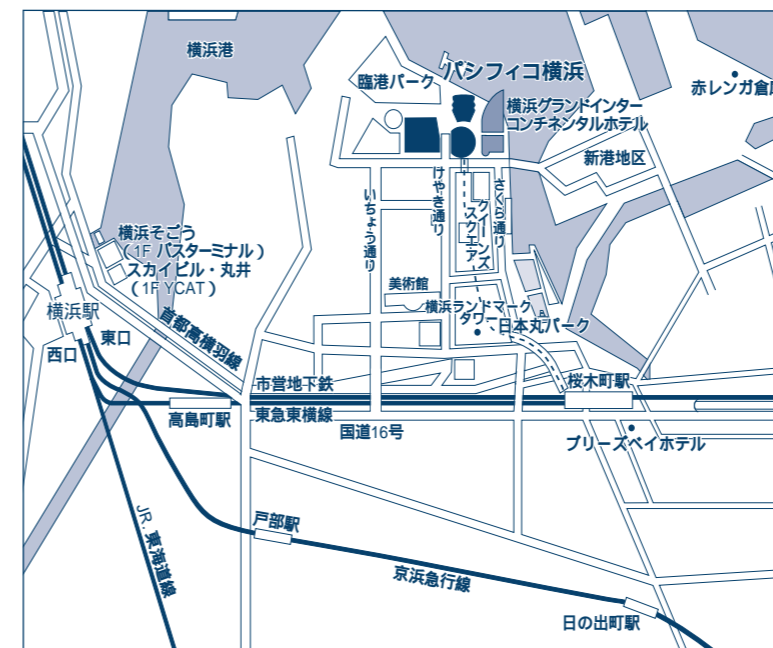
内分泌攪乱化学物質 問題に関する 国際シンポジウム

2000年12月16日(土)~18日(月)

パシフィコ横浜

主催：環境庁

協力：日本内分泌攪乱化学物質学会



会場案内

2000年12月16日(土)~18日(月)

パシフィコ横浜

〒200-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1

TEL: 045-221-2121

交通のご案内

- *羽田空港よりリムジンバスで約30分
- *新幹線「新横浜駅」から横浜市営地下鉄で約15分「桜木町駅」より徒歩12分、バスまたはタクシー利用5分
- *JR・東急東横線「桜木町駅」より徒歩12分、バスまたはタクシー利用5分

参加申し込み・お問合せ先

株式会社コングレ内

「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局

〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル 6F

TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-3263-4033

E-mail: eed2000@congre.co.jp

シンポジウムの内容に関するお問合せ先

環境庁環境保健部環境安全課

〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関1丁目2番2号

TEL: 03-5521-8261 FAX: 03-3580-3596

E-mail: ehs@eanet.go.jp

ポスターセッションに対する応募・お問合せ先

日本内分泌攪乱化学物質学会事務局

〒305-0061 茨城県つくば市稲荷前 24-1-202

TEL: 0298-59-0818 FAX: 0298-59-0851

E-mail: jsedr@mb.infoweb.ne.jp

プログラム

12/16(土)	午後	<ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶 ・環境庁長官挨拶 ・来賓挨拶 特別講演 第1部 取組の現状 第2部 パネルディスカッション
	夜	(レセプション)
12/17(日)	午前	セッション1 野生生物への影響
	午後	セッション2 健康影響 セッション3 試験法
12/18(月)	午前	セッション4 作用メカニズム
	午後	セッション5 低用量問題 セッション6 リスク管理

招待講師

国外講師

Theodora E. Colborn (WWF)

John A. McLachlan (Tulane University, U.S.A.)

Louis J. Guillette Jr. (University of Florida, U.S.A.)

Peter Matthiesen (Centre for Environment, Fisheries and Aquaculture Science, U.K.)

Thomas H. Hutchinson (AstraZeneca, U.K.)

Marc Dujardin (Université Libre de Bruxelles, Belgium)

Susan Jobling (Brunel University, U.K.)

Penny Fenner-Crisp (Environmental Protection Agency, U.S.A.)

William R. Kelce (Monsanto Co., U.S.A.)

Paul Foster (Chemical Industry Institute of Toxicology, U.S.A.)

国内講師

有薗 幸司 (熊本県立大学)

井上 達 (国立医薬品食品衛生研究所)

井口 泰泉 (岡崎国立共同研究機構)

紫芝 良昌 (虎ノ門病院)

鈴木 継美 (東京大学名誉教授)

高杉 暹 (横浜市教育委員会)

堤 治 (東京大学)

遠山 千春 (国立環境研究所)

長濱 嘉孝 (岡崎国立共同研究機構)

名和田 新 (九州大学)

堀口 敏宏 (国立環境研究所)

松尾 昌季 ((株)住友化学)

森 千里 (千葉大学)

現在、交渉中の講師を含む。

順不同

セッション

市民向け

特別講演

野生生物の生殖機能異常、雄の雌性化など内分泌攪乱化学物質問題を取り巻く現状を紹介し、解決への糸口を探ります。

第1部 取組の現状

欧米諸国等における内分泌攪乱化学物質に対する取組を紹介し、情報の交換を行います。

第2部 パネルディスカッション

様々な分野の専門家が一堂に会し、内分泌攪乱化学物質問題の解決に向けた建設的で具体的な議論を行います。

各セッションの概要

セッション1
野生生物への影響

様々な野生生物種において、内分泌機能や生殖・発育の障害が報告されており、これらの異常現象と内分泌攪乱化学物質との関連について研究が進められていますが、本セッションでは、最新の科学的知見の交換を行います。

セッション2
健康影響

本セッションでは、PCBとダイオキシンの甲状腺機能の攪乱作用による神経発達への影響を中心に健康影響について最近話題となっている問題を議論します。

セッション3
試験法

内分泌攪乱化学物質による健康影響や生態影響を評価するために、試験法の開発が進められていますが、本セッションでは、試験法の開発に関する科学的知見の交換を行います。

セッション4
作用メカニズム

分子生物学の発展に伴い、内分泌攪乱化学物質の細胞・分子レベルでの作用メカニズムが解明されつつありますが、本セッションでは、レセプターや細胞内情報伝達系を介した作用メカニズム等について議論します。

セッション5
低用量問題

低用量問題では、閾値の有無にかかわるほどの低用量反応性、高用量域からの直線外挿性の可否(逆U字反応など)、相加性や相乗性の有無などが論点となっていますが、本セッションではこれに関連する作用メカニズムを議論します。

セッション6
リスク管理

本セッションでは、内分泌攪乱化学物質をはじめとする環境化学物質のリスク管理について議論します。

ポスターセッション

日本内分泌攪乱化学物質学会主催により、ポスター発表が行われます。ポスターでの発表を希望する方は、日本内分泌攪乱化学物質学会事務局まで問い合わせください。
連絡先：TEL：(0298)59-0818 FAX：(0298)59-0851